

① 鶴見川流域

【主な流域資源】

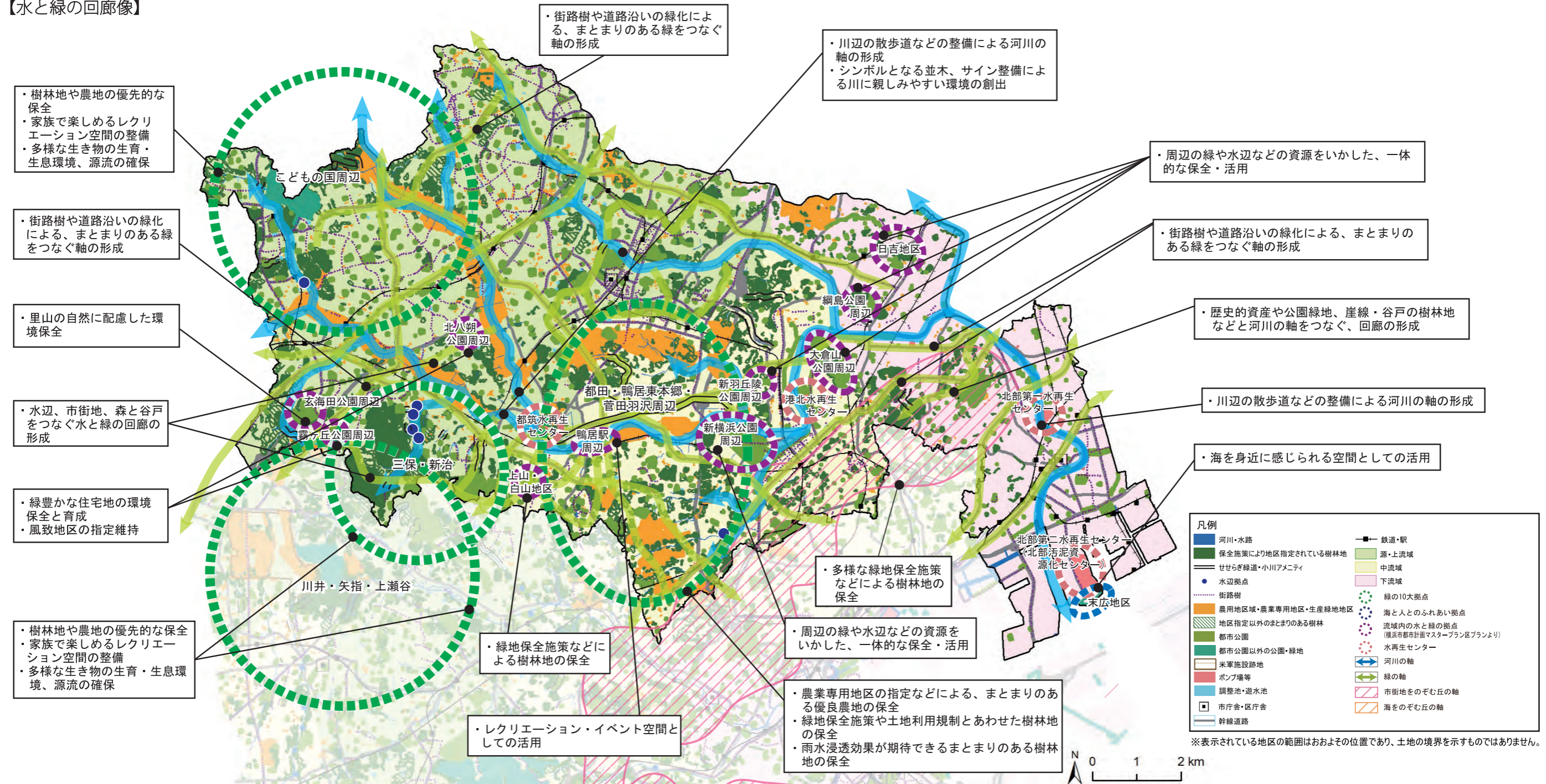
流域面積：約240km²（うち横浜市域約140km²）

<p><河川> 鶴見川、梅田川、大熊川、鳥山川、早淵川、砂田川、恩田川、鴨居川、矢上川（以上1級河川） 黒須田川、奈良川、岩川、布川（以上準用河川）</p> <p><水辺拠点> 梅田川（一本橋メダカひろば、杉沢堰、梅田川親水広場、梅田川遊水地）、鳥山川（鳥山川遊水地）、奈良川（恩田駅前水辺広場）</p> <p><水再生センター> 都筑、港北、北部第一、北部第二水再生センター（北部汚泥資源化センター）</p>
<p><緑の拠点> 獅子ヶ谷市民の森、小机城址市民の森、熊野神社市民の森、綱島市民の森、新治市民の森、三保市民の森、鴨居原市民の森、川和市民の森、池辺市民の森、新横浜公園、県立四季の森公園、都筑中央公園、県立三ツ池公園、岸根公園、寺家ふるさと村、寺家農業専用地区、池辺農業専用地区、東方農業専用地区、折本農業専用地区、鴨居東本郷農業専用地区、菅田羽沢農業専用地区 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域	下流域
量	源・上、中流域においては水緑率を維持しつつ、浸透域を保全するとともに、下流域の緑化を推進する。	緑の10大拠点などの樹林地・農地を保全するとともに、雨水の浸透域を保全する。	緑の10大拠点などの樹林地・農地を保全するとともに、市街地における緑化を推進する。	街路樹などによる公共空間の緑化を推進するとともに、事業者などとの連携による緑化を推進する。
質	源・上、中流域では谷戸や里山の景観を保全するとともに、下流域では緑化による景観の向上や、発生源対策による水質向上を図る。下水処理の高度化と合流式下水道の改善などを進める。	樹林地・農地の保全と合わせて、緑地の担保量の向上や里山や谷戸の景観保全を進める。	緑地担保量の向上により、樹林地・農地を保全するとともに、生き物の生育・生息環境に配慮した緑化を推進する。	発生源対策などによる水質の向上や、市街地の緑化などにより景観の向上を図る。
魅力	国、県や周辺都市による広域連携や、市民や環境活動団体とも連携した流域の魅力づくりを進める。	農体験の場など、農地を活用した魅力づくりや、自然体験が出来る拠点づくりを進める。	まとまりのある樹林地を活用したレクリエーション空間や農体験の場づくり、市民と連携したイベント活動を推進する。	身近な公園の整備や水辺へのアクセス・回遊性の向上などにより、水と緑の回廊形成を進める。

【水と緑の回廊像】



② 入江川・滝の川流域

【主な流域資源】

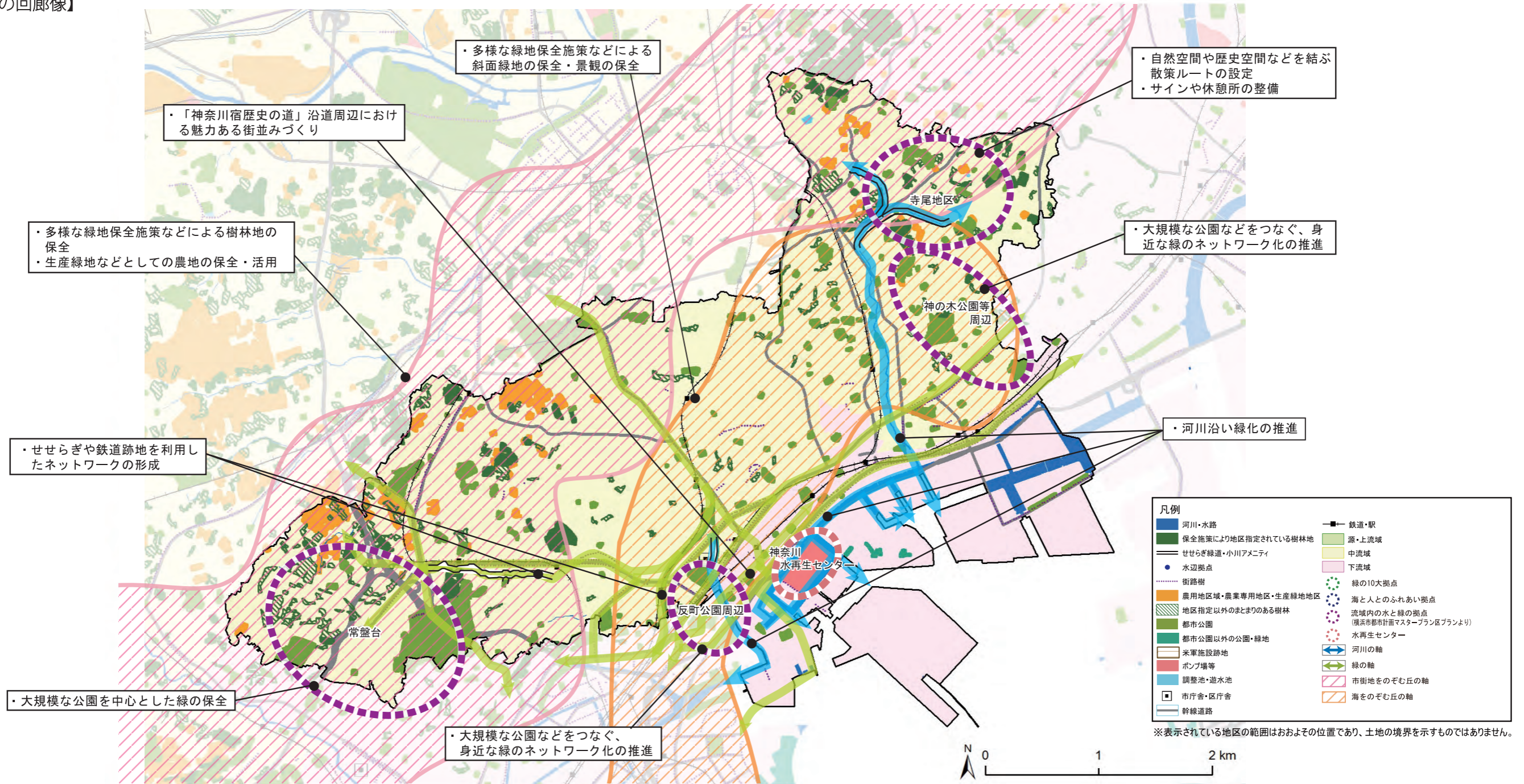
流域面積：約20km²

<p><河川> 入江川、滝の川、入江川派川 <水再生センター> 神奈川水再生センター</p>
<p><緑の拠点> 豊頭寺市民の森、三ツ沢公園、片倉うさぎ山公園、神の木公園、馬場花木園、馬場赤門公園 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	中流域	下流域
量	住宅や事業所など、市民や事業者との連携により緑化を推進し、流域全体の水・緑環境の向上を図る。	貴重な樹林地や農地を保全し、公共施設などの緑化を推進する。	街路樹や河川沿いなどの公共空間の緑化に加え、事業所などの緑化を事業者などとの連携により進める。
質	発生源対策などによる水質の向上や緑化などによる市街地の景観の向上を図る。合流式下水道の改善などを進める。	樹林地や農地の保全、公共空間の緑化により、市街地の景観を向上させる。	発生源対策などによる水質の向上や水辺の緑化などによる景観の向上を図る。
魅力	地域住民や事業者との連携や公共空間の緑化などにより水と緑の回廊を形成する。	身近な公園の整備や水・緑環境を活用した水と緑の回廊形成を進める。	水辺へのアクセスや回遊性を向上させるなどにより、水と緑の回廊を形成する。

【水と緑の回廊像】



③ 帷子川流域

【主な流域資源】

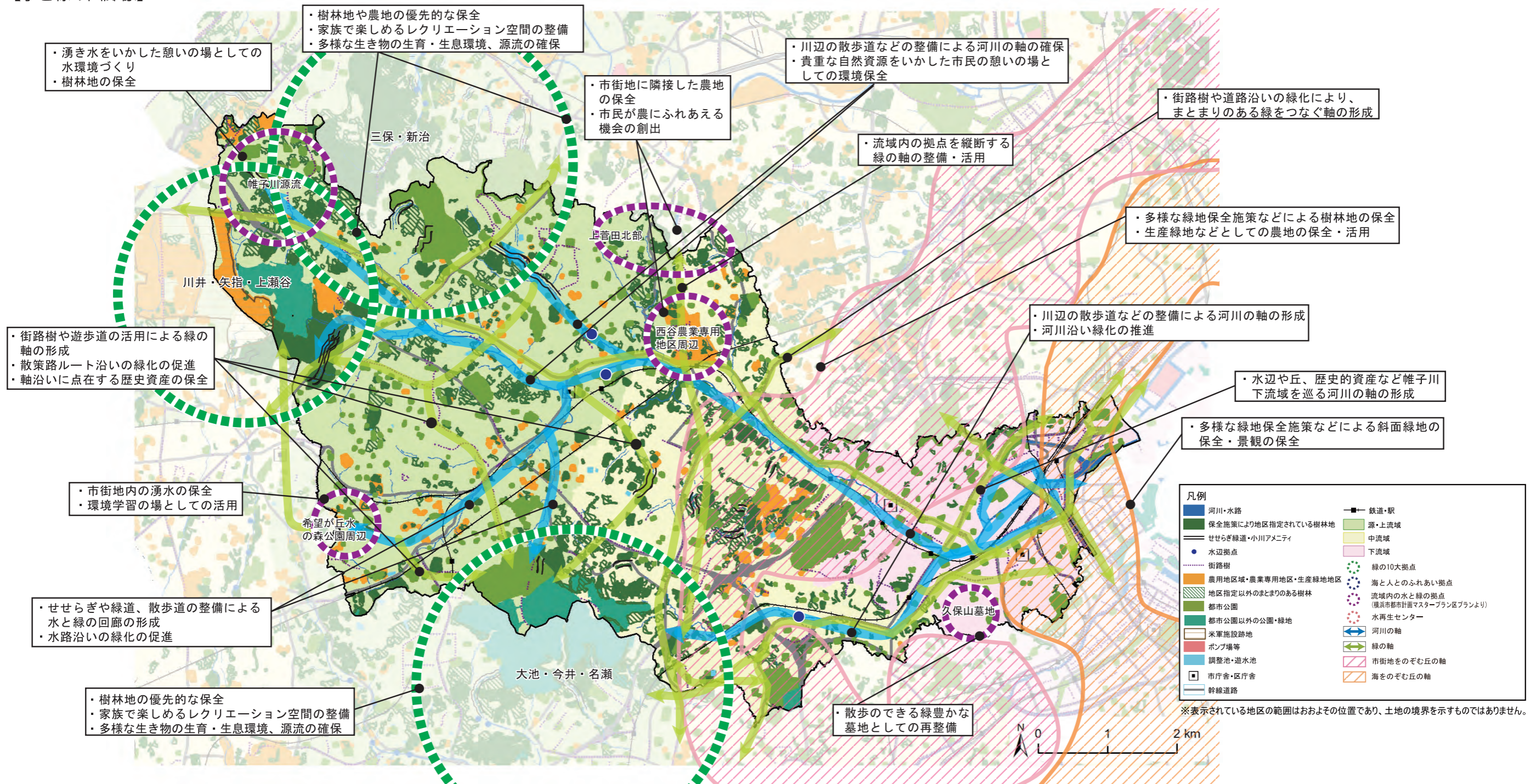
流域面積：約60km²

<p><河川> 帷子川、新田間川、幸川、石崎川、中堀川、今井川（以上2級河川）、 矢指川、新井川、くぬぎ台川（以上準用河川）など</p> <p><水辺拠点> 帷子川（親水緑道）、中堀川（白糸の滝）、今井川（地下調節池沈砂地上部）</p>
<p><緑の拠点> 追分市民の森、矢指市民の森、今宿市民の森、南本宿市民の森、横浜動物の森公園、こども自然公園、今川公園、 陣ヶ下溪谷公園、県立保土ヶ谷公園、横浜市児童遊園地、環境活動支援センター、上川井農業専用地区 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域	下流域
量	源・上流、中流域では水緑率を維持し、 下流域では緑化による緑の量の向上 を進める。	緑の10大拠点などの樹林地・農地 を保全するとともに、雨水の浸透域 を保全する。	まとまりのある樹林地・農地の保 全や、街路樹、河川沿いなど公共 空間の緑化を進める。	街路樹や河川沿いなどの公共空間の 緑化、多様な緑地保全施策による斜 面緑地の保全のほか、屋上・壁面緑 化などを進める。
質	源・上流、中流域では緑地担保量の 向上を進め、下流域では緑化など による景観の向上を図る。 合流式下水道の改善を進める。	樹林地や農地の保全により、源流の 景観を保全するとともに、まとまり のある緑を確保する。	河川沿いにある連続した斜面緑地 の保全などにより緑地担保量の向 上を図る。	発生源対策などによる水質の向上や 市街地の緑化などによる景観の向 上を図る。
魅力	身近な公園を充実させるとともに、 源・上流、中流域における水と緑の 回廊形成を進める。	身近な公園の充実や、散策路などの 充実による水と緑の回廊形成を進め る。	身近な公園の充実や、河川沿いの 充実による水と緑の回廊形成を進め る。	様々な制度を活用し、身近な公園の 整備を推進する。

【水と緑の回廊像】



④ 大岡川流域

【主な流域資源】

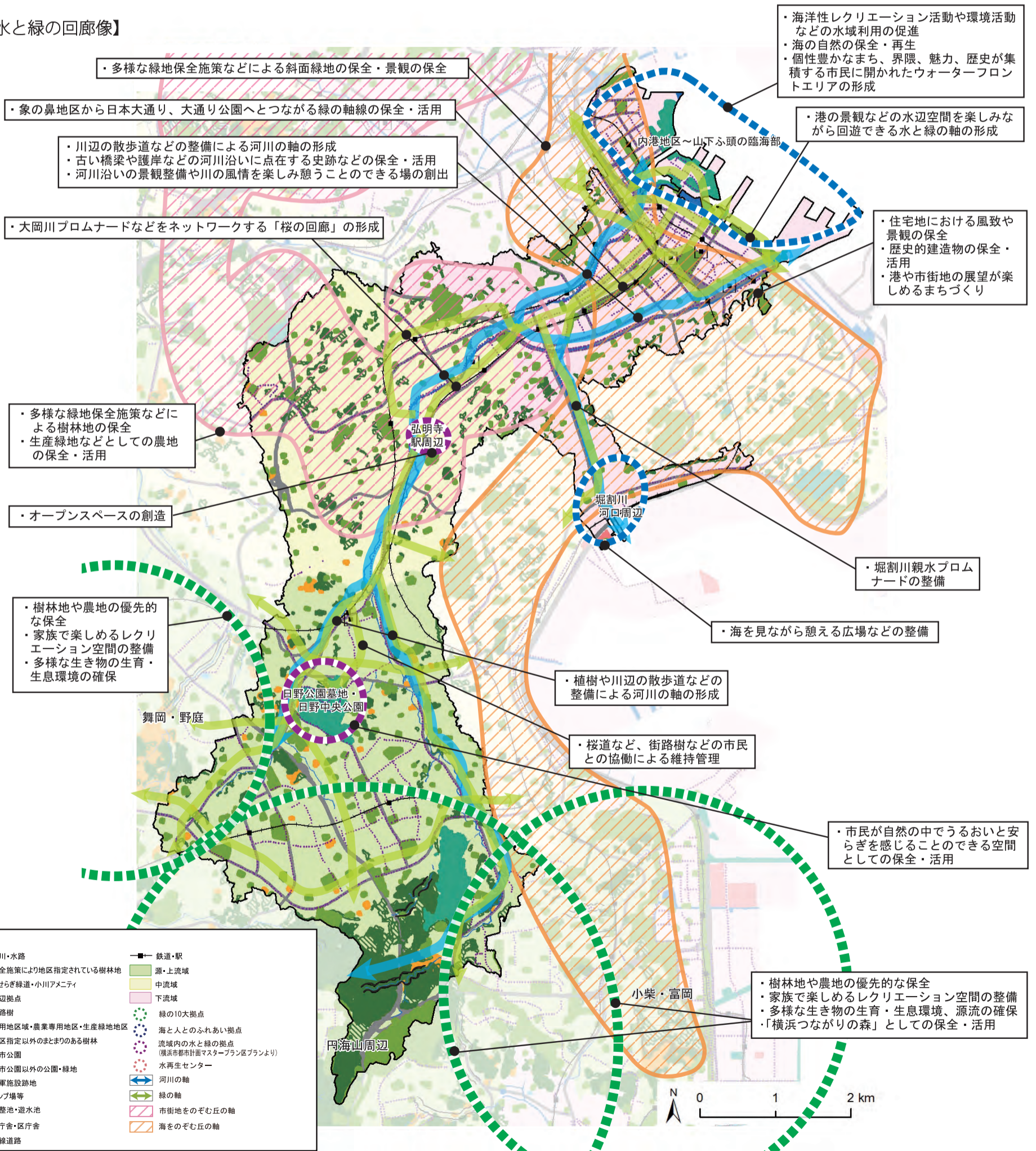
流域面積：約40km²

<p><河川> 大岡川、中村川、堀川、堀割川、日野川（以上2級河川）</p>
<p><緑の拠点> 水取沢市民の森、峯市民の森、山下公園、横浜公園、大通り公園、野毛山公園、横浜市こども植物園、清水ヶ丘公園、弘明寺公園、日野中央公園、港南中央公園、港南台さえずりの丘公園、洋光台南公園、臨港パーク、野毛山公園、赤レンガパーク、日野公園墓地、水取沢農業専用地区 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域	下流域
量	源・上流域ではまとまりのある緑の保全、中流、下流域では緑化を推進する。	緑の10大拠点などの樹林地を保全するとともに、雨水の浸透性を保全する。	街路樹や河川沿いなどの公共空間の緑化や市街地における緑化を推進する。	街路樹や河川などの公共空間の緑化やビルなどの屋上・壁面緑化を推進する。
質	生物多様性に配慮したまとまりのある樹林地を保全し、特徴ある景観や水質を維持する。	生物多様性に配慮しつつ、まとまりのある緑地の保全、水質の維持を進める。	緑地担保量の向上とともに、河川沿いの並木の景観を保全する。	みなと横浜を象徴する景観の保全や、水質の維持・向上を図る。
魅力	源・上流域のまとまりのある緑、中流、下流域の水辺や横浜を象徴する緑を楽しむことのできる場づくり、水と緑の回廊形成を進める。	まとまりのある樹林地などにおける環境学習拠点や農地を活用した市民と農とのふれあいの創出を進める。	身近な公園整備や街路樹・河川を軸とした水と緑の回廊形成を進める。	水辺へのアクセスや横浜を象徴する公園・緑地への回遊性を向上させることなどにより、水と緑の回廊を形成する。

【水と緑の回廊像】



⑤ 宮川・侍従川流域

【主な流域資源】

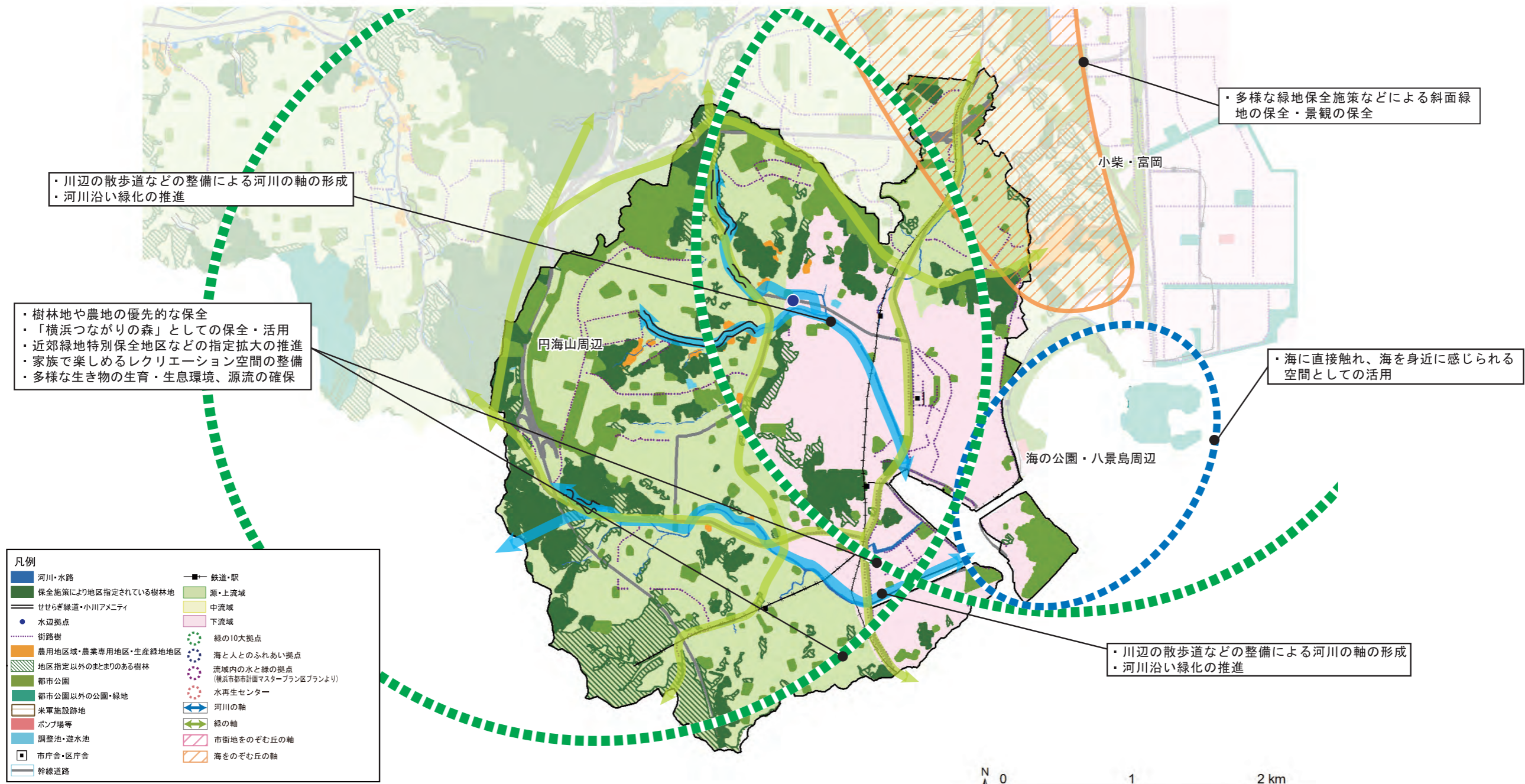
流域面積：約10km²

<河川> 宮川、侍従川（以上2級河川） <水辺拠点> 宮川（宿広場） <海浜等> 平潟湾
<緑の拠点> 釜利谷市民の森、関ヶ谷市民の森、称名寺市民の森、金沢自然公園、海の公園、野島公園 など

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	下流域
量	源・上流域ではまとまりのある緑の保全、下流域では緑化を推進する。	緑の拠点となっているまとまりのある樹林地の保全を進める。	街路樹や河川沿いの緑化などを中心に、市街地の緑化を推進する。
質	生物多様性に配慮したまとまりのある樹林地を保全し、特徴ある景観や水質を維持する。下水処理の高度化と合流式下水道の改善を進める。	歴史的資産や生物多様性に配慮しつつ、まとまりのある緑地の保全、水質の維持を進める。	歴史的資産や水辺の景観を保全するとともに、水質の維持・向上を図る。
魅力	源・上流域では豊かな緑、下流域では歴史と水辺を楽しむことのできる場づくり、水と緑の回廊形成を進める。	まとまりのある樹林地などにおいて環境学習拠点、環境活動の場づくりを進める。	街路樹や河川沿いの散歩道の整備などにより、歴史や水辺をつなぐ水と緑の回廊を形成する。

【水と緑の回廊像】



⑥ 柏尾川流域

【主な流域資源】

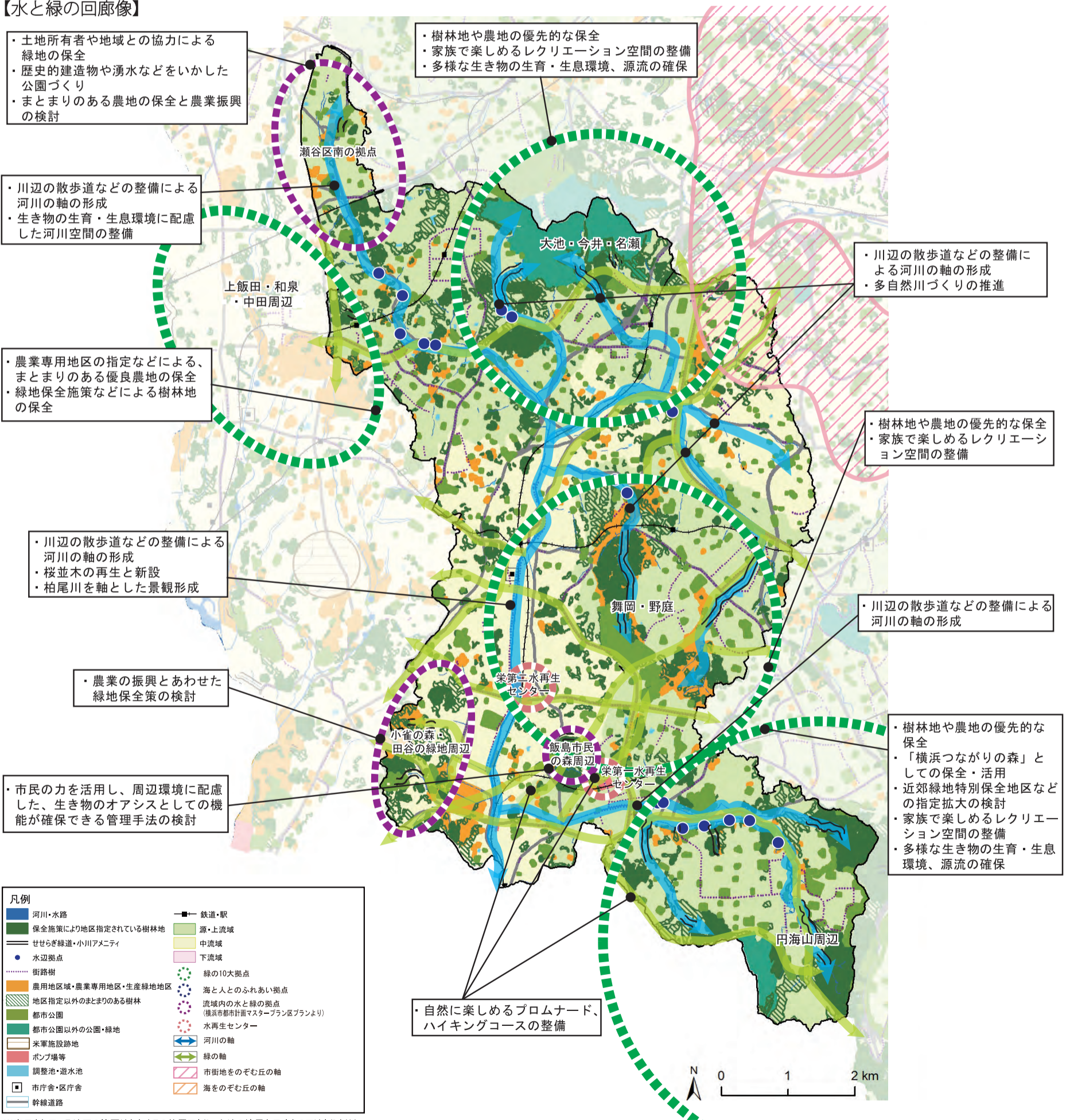
流域面積：境川流域約210km²（うち柏尾川の横浜市域約60km²）

<p><河川> 柏尾川、阿久和川、名瀬川、舞岡川、いたち川、平戸永谷川（以上2級河川）、川上川、芹谷川（以上準用河川）</p> <p><水辺拠点> 平戸永谷川（平戸永谷川遊水地）、阿久和川（古のまほろば、集いのまほろば、出合いのまほろば、憩いのまほろば、ふれあいのまほろば）、いたち川（石橋下流広場、川辺の学校広場、稲荷森の水辺、扇橋の水辺、坊中の水辺、石原の水辺、紅葉橋下流）、舞岡川（舞岡川ふれあい広場、舞岡川遊水地）、名瀬川（名瀬川遊水地）</p> <p><水再生センター> 栄第一水再生センター、栄第二水再生センター</p>
<p><緑の拠点> 瀬上市民の森、上郷市民の森、荒井沢市民の森、飯島市民の森、下永谷市民の森、鍛冶ヶ谷市民の森、横浜自然観察の森、舞岡公園、小雀公園、戸塚公園、金井公園、本郷ふじやま公園、小菅ヶ谷北公園、舞岡ふるさと村、野庭農業専用地区、田谷長尾台農業専用地区、小雀農業専用地区、舞岡農業専用地区 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域
量	水緑率や自然な水循環を維持する。	緑の10大拠点をはじめ、まとまりのある樹林地や農地の保全を進める。	孤立した樹林地、農地を保全するとともに、自然な水循環の形成を図る。
質	生物多様性に配慮した大規模な樹林地・農地の保全と斜面緑地の担保を進める。 合流式下水道の改善などを進める。	生物多様性に配慮しつつ、大規模な緑地の保全、水質の維持を進める。	樹林地・農地の保全と合わせて、小規模な斜面緑地などの緑を担保する。
魅力	交流の場・農体験の場として農地の活用を図るとともに、河川環境整備や街路樹整備による水と緑の回廊を形成する。	農体験の場など、農地を活用した魅力づくりや河川・街路樹を軸とした水と緑の回廊形成を図る。	市民の森などを活用したレクリエーション空間、農体験の場づくりを図り、身近な水と緑の回廊形成を図る。

【水と緑の回廊像】



⑦ 境川流域

【主な流域資源】

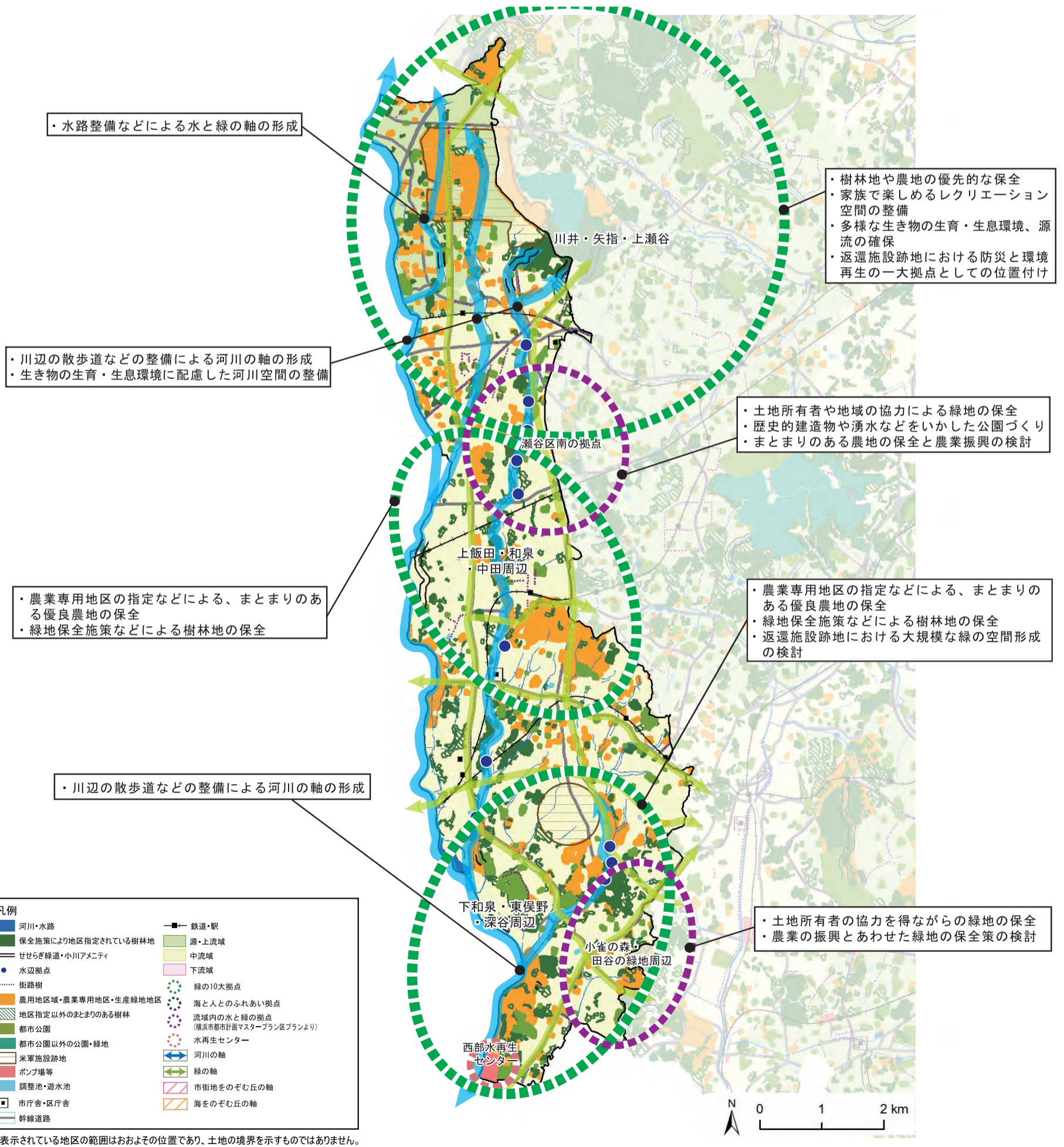
流域面積：境川流域約210km²（うち境川の横浜市域約40km²）

<p><河川> 境川、和泉川、宇田川（以上2級河川）、相沢川（準用河川）</p> <p><水辺拠点> 和泉川（和泉川親水広場、和泉遊水地、地蔵原の水辺、宮沢遊水地、寺ノ脇の水辺、東山の水辺、関ヶ原の水辺、二ツ橋の水辺、いずみ桜広場）、宇田川（まさかりが淵、的場橋上流広場、宇田川遊水地）</p> <p><水再生センター> 西部水再生センター</p>
<p><緑の拠点> 瀬谷市民の森、まさかりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、瀬谷本郷公園、瀬谷貉窪公園、中田中央公園、しらゆり公園、天王森泉公園、戸塚西公園、東俣野中央公園、県立境川遊水地公園、上瀬谷農業専用地区、並木谷農業専用地区、中田農業専用地区、東俣野農業専用地区 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域
量	現在の水緑率を維持するとともに、流域の保水・遊水機能をさらに高めていく。	緑の拠点となっている樹林地や農地の保全を進める。	まとまりのある樹林地や河川沿いの農地を保全するとともに、自然な水循環の形成を図る。
質	河川沿いに広がる景観をまもるため、樹林地や農地の保全を進める。	生物多様性に配慮しつつ、大規模な緑地の保全、水質の維持を進める。	河川沿いに広がる景観をまもるため、河岸段丘の樹林地や農地の保全を進める。
魅力	交流の場・農体験の場として農地の活用を図るとともに、河川環境整備や街路樹整備による水と緑の回廊を形成する。	多くの人々が農と緑を楽しむ空間づくりを進める。	広く利用者を引きつける緑の空間の形成や、河川環境整備・街路樹整備などによる水と緑の回廊形成を進める。

【水と緑の回廊像】



⑧ 直接海にそそぐ小流域の集まり

【主な流域資源】

流域面積：約50km²

<水路>
長浜水路、富岡川、南台川、杉田川、聖天川
<海浜等>
海の公園、八景島
<水再生センター>
中部、南部、金沢水再生センター（南部汚泥資源化センター）

<緑の拠点>
港の見える丘公園、海の公園、長浜公園、富岡総合公園、金沢海辺の散歩道、根岸森林公園、三溪園、本牧市民公園、久良岐公園、岡村公園、横浜港シンボルタワー、大黒ふ頭先端緑地、柴シーサイドファーム

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域	下流域
量	源・上流域については緑の保全を中心に、中流、下流域は、旧海岸線の斜面緑地の保全や水と緑の回廊形成を進める。	緑の10大拠点の保全、周辺住宅地における緑化を推進するとともに、水路や街路樹を軸とした回廊形成を図る。	まとまりのある緑地や旧海岸線の斜面緑地を保全するとともに、街路樹や道路沿いの緑化を進める。	工場内緑化、工業団地内街路の緑化など、市民・事業者との協働による水・緑環境の向上を図る。
質	緑地の担保率向上による質の維持と合わせて、横浜らしい斜面緑地の保全を進めるとともに、生物多様性に配慮した、水・緑環境を創造する。	小柴・富岡では、生態系に配慮した保全施策や旧海岸線の特徴をいかした質の向上を図る。また、緑地の担保率を高める。	旧海岸線の斜面緑地の保全を図る。また、歴史ある街並みの保全に向けて、風致地区の保全施策を進める。	水路・海域の水質向上に向けた発生源対策を進めるとともに、事業者との協働により生物多様性にも配慮した水と緑の回廊形成を進める。
魅力	源・上流域のまとまった緑や旧海岸線の斜面緑地など、横浜らしい景観を保全するとともに、海辺を最大限に活用した魅力アップを図る。	大規模な公園の拡充などによる緑の拠点、海がのぞめる眺望をいかした回廊の形成を目指す。	身近な公園整備や歴史ある水と緑の空間を保全するとともに、海に近いという地域特性をいかした魅力づくりを進める。	水路・海辺を活用した魅力向上と緑あふれる回廊形成を目指す。また、海洋性レクリエーション活動や環境学習などの拠点づくりを進める。

【水と緑の回廊像】

